

どのした淵

【文化財ボランティア養成講座 in 泊野】

8月15日(火)さつま町文化財ボランティア養成講座が泊野地区内において行われました。

一行10名は、集会所で現王神社祭りのDVDの視聴、大正橋や地区内の田の神さあ、現王神社等の現地に出向き、既にボランティアとして活躍中の楠八重多美子さんの案内・説明を受けました。

地域の文化財等は地域のなりたちを表すとともに地域の歴史であり、先人達が営々と守り続けてきたふるさとの宝です。先人の営みが無ければ現在もないわけで、これらを後世につないでいくのは私たちの宿命でもあるのです。



※文化財ボランティアは町内の文化財の紹介・案内をとおして、ふるさとの魅力発信に努めておられます。町外から訪れた方々も、語り部たちの軽妙な案内で楽しく視察されています。

5年度の村づくりテーマは

『気づき・動き・紡ぐ』です。

発行責任者

高峰公民会長

三 腰 善 行

090-1089-9432

令和5年9月1日発行



【田の神さあ のぼり旗 設置】

活性化委員会文化民生部会の事業で、泊野にある田の神さあへのぼり旗を作成しました。それぞれの集落で行われる田の神講に色添え出来たら幸いです。



今年度の高峰の田の神講は3班が当番で行われます。田の神さあは、出産・生殖・豊作の神様と言われております。田んぼの耕作者に限らず、全員でお祀りしましょう。

5年度のスローガンは『語り合い・共生協働による村づくり』です。

たかね寺小屋 【西郷隆盛の人生訓】
小説家童門冬二「西郷隆盛の人生訓」抜粋

●才だけでは、世の中は動かない、仕事も完
成しない

「今の人は、才と知だけあれば、仕事は思っ
まに行えると言う。とんでもない話だ。逆に、
才に任せて仕事をしている人を見ると、はら
はらす。危なくて見てられない。才、すな
はち頭だけで、物事は成り立たない。つまり、
ポディーがなければ何事も出来ない。頭だけ
あっても、動く胴や手足がなければ、仕事は完
成しないのだ。そして、このポディーや手足が
何によって動くかといえば、それはやがり、
頭、すなわち、才の底に人間の誠が存在するか
否かによる。誠がなければ、手や足もきつと頭
に愛想をつかすだろう」

●君子の心とは、自然にとけ合っている人間の
心という

「ある時、西郷先生に従うと、先生は犬を連れ
て兎を追った。山野を跋涉して、終日飽きなか
った。そして、谷間の一軒の家に泊まった。風
呂から出て、非常に明るい表情でこうおし
やた。『君子の心というのは、いつもこうあり
たいものだ』と」

【祝 敬老】

例年区主催で行われている敬老祝賀会は、コロナがら類感染症に移行されたにもかかわらず、未だ感染のニュースも絶えない中、リスクを回避するため自粛し開催せず、祝い品を贈呈することになりました。後日対象者に持ち廻りしお届けいたします。対象の皆様には誠に申し訳ありませんが御了承ください。公民会からは祝辞を別途お届けさせていただきます。

町から配布された敬老行事（70歳以上）対象者名簿の高峯公民会分は21名です。皆様の長年のご功績・ご苦勞に敬愛の念を抱きつつお祝い申し上げます。

※敬老の日、日本の国民の祝日の一つである。高齢者を敬ぶ日。日付は9月の第3月曜日。

2002年（平成14年）までは毎年9月15日を敬老の日としていたが、2003年（平成15年）から現行の規定となっている。

【どのした淵駐車場への善意】

夏休みもあつという間に終わり、どのした淵の夏がいきました。期間中駐車場に設置していた利用に係る募金箱（志箱）を開錠したところ、8448円の御寄付を賜りました。除草等の維持管理に活用させていただきます。

有難うございました。



【9月行事計画】

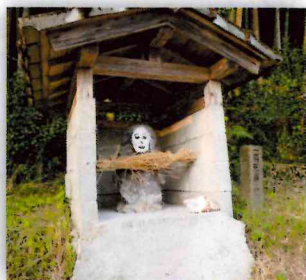
- 1～7日 秋のあいさつこだま運動
- 3日 町民バレー
- 5日 国体花育てリレー花配布（高校）
- 17日 ・町道／農道払い
・グラウンドゴルフ交流会
- 21～30日 秋の全国交通安全運動
- 9月の文書発送日は7・21日です。

◆資源ごみ 6・20日 ◆不燃ごみ 18日

【10月行事計画】

田の神講（当番3班）
8～12日 特別国民体育大会（少年ラグビー）

◆資源ごみ 4・18日 ◆不燃ごみ 16日



ふるさと回顧録

『泊野に生きて』 大阪府八尾市 久木野正志
第4章 冬（12月～2月） NO 1

◆年末餅つき・・・近所4戸よりよて2日間（朝と夕方）。子ども達は蒸籠の底に残った熱いもち米を手でつかみ食べるのが楽しみ。鏡餅、飾り餅など大人がつき終わると、子ども達がからいも入りのネッタボを杵でつく。最後に大根、ニンジン等具沢山の鍋汁につき立ての餅を入れてみんなで食べた。

◆正月出・・・親戚が集まり新年の始まりを祝う。1月2日は母の生家と決まっていた。大きくて重い鏡餅を風呂敷に包み持って行った。子どもは風揚げやトランプ遊び。

◆正月受・・・私の家は、1月5日に受けていた。お年玉が子供の楽しみ。

◆メの餅・・・毎年1月14日ごろ、赤、緑、白色の餅をつき、細い四角にして木の枝先に刺して部屋角に供えた。また、墓にも供えたがカラスの餌だった。

◆つらら・・・大きい時はセドワ側に長さ50cm、3cm程の太さ。折ってたまに食べていた。

◆かまくら・・・昭和38年頃、一番多く積もった。学校も2日間休校。隣の兄ちゃんたちとかまくらを造り蝋燭を焚いて雰囲気味わった。この年が最高の雪だった。

◆竹でスキー遊び・・・もそだけでスキーを造り、縄で足止めし、緩い坂の木戸で滑った。

次号は冬・NO2／第5章 泊野小学校時代（昭和32・4～38・3）をお届けします。

お楽しみに!!